平成２８年度　発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
（系統性のある支援研究事業）
成果報告書（概要版）

実施機関名（八街市教育委員会）

1. テーマ

～八街っ子の夢をつなぎ続ける支援のあり方～
各学校で得られた児童生徒にとって有効な支援方法を系統的につないでいくには、どのようにしたらよいか。

2. 問題意識・提案背景

本市には、児童生徒が落ち着いて学習や学校生活に取り組めるよう多くの観点から検討し、幼児から高等学校卒業までの１４年間を通じ子供達に身に付けさせたい姿を「継続指導６項目」として考え、学校種を超えて共通実践してきた「幼小中高連携教育」がある。また、通常学級における特別支援教育の推進についての関心の高まりも見られ、教職員の専門性の向上に努めてきた。特別支援教育専門家チームによる適切な指導及び支援方法・支援体制の強化についても要請が多い。

しかし、引き継ぎに関しては、学校間における環境の変化から進学後のトラブルや不適応が起きても、現象面に目を奪われて、ただ単に、生徒指導上の問題と捉えられてしまい、その後の対応に追われるケースも多く、有効な支援に十分には結びついていない、と考えられる。

これらから、現在の課題として「系統性のある支援と引き継ぎ」が挙げられる。

3. 目的・目標

(1) 目的・目標

八街市の培ってきた幼小中高連携の基盤を生かし、更に専門的な視点を入れることで、次の３点を研究する。

ア．障害の特性に応じた個別の指導計画・教育支援計画の見直し
イ．引き継ぎにおける観点の明確化、時期・受け入れについて
ウ．発達段階に応じた本人への支援・環境調整について

また、研究したことを紙面・及び地区特別支援教育推進会議等で広めていく。

(2) 取組

ア．障害の特性に応じた個別の指導計画・教育支援計画の見直し

個別の教育支援計画等の作成に向けて、児童生徒の特性をできるだけ正確に捉え、具体的な支援につながるツールとして、子供たちのよさや困難さを知るための保護者による「チェックシート」を保護者の支援や思いを引き継ぐツールとして、そして、学校間での引継ぎ事項に「特別な支援」の欄を設け、後在籍校へ担任等が行っていた支援を引き継ぐためのツールとして、２方向の手立てを活用していくこととした。

（保護者と担任のための「チェックシート」）
前在籍校にて保護者に配布し、良いことを中心に記載。
引き継ぎシートのためのスクリーニングに使用。

	質　問 ・学校や家庭での普段のお子様の様子です。また、ご進学される学校で予想される様子でも結構です。 「できる」「できそう」「当てはまる」→○ 「少々難しいかも」「当てはまらない」→△	下記の欄に○または△を記入してください。	備考欄 ※具体的な様子や状況をご記入ください。
1	いつも、友達や先生の話の内容をもらさないで、聞くことができている。		
2	教室や集会などで、一斉に伝達した内容を理解でできている。		
3	常に、言葉につまらないで、話ができている。		
4	友達や先生に、自分の気持ちや意図が伝わるように順序立てて話すことができている。		
5	授業中、時間内に、ノートに書き写すことができている。		
6	自分の考えをまとめて、文章に書くことができている。		
7	物語の人物や心情などを理解することができている。		
8	忘れ物をしないで、学習や活動に必要なものの準備ができる。		
9	モノよりも人のほうに魅力を感じている。		

（個別指導計画・個別の教育支援計画作成）

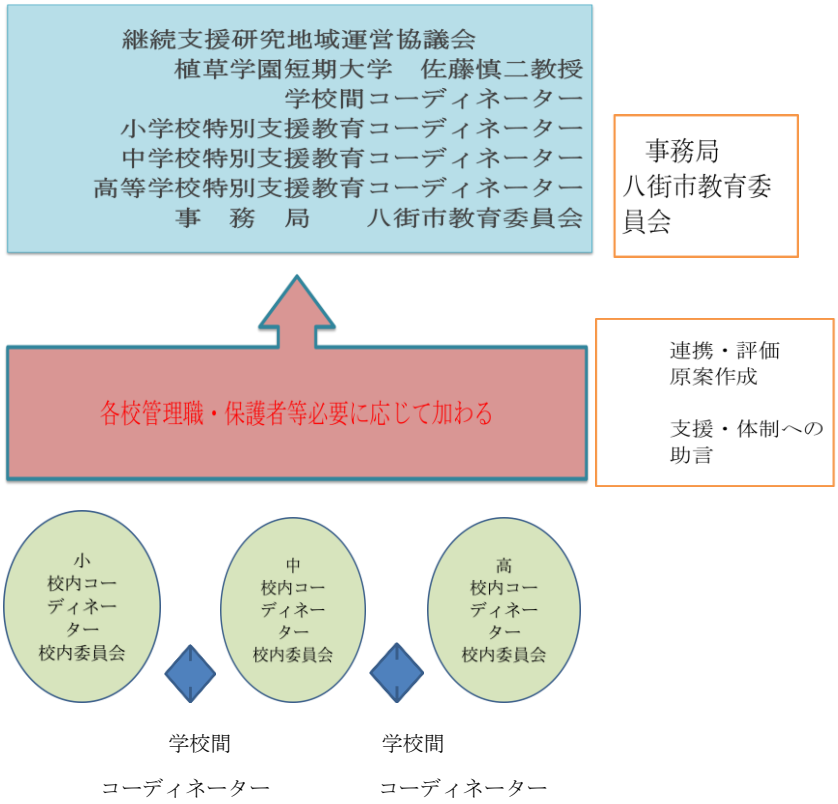
○　必要な部分をメモのように記入する。
○　先生方と学校間コーディネーターが、実際にどのように書いていくか考え、作成していく。
○　必要な部分をメモのように記入する。
○　先生方と学校間コーディネーターが、実際にどのように書いていくか考え、作成していく。
○　子供達のより良い姿を引き継いで行くために、本人の様子と共に、「良い支援方法」を引き継ぎたい。
○　支援をつくるためのツールとしてこの指導計画を作成し、「個別の教育支援計画」に発展させていきたい。
○　項目には「有効な手立て」の欄を追加し、支援をつなぐための基礎資料とする。

イ．引き継ぎにおける観点の明確化、時期・受け入れについて

通常学級で支援の必要な児童生徒の存在について教員の意識を確認する目的で２７年７月にアンケート調査を実施した。継続支援研究地域運営協議会を行って、後在籍校の教職員に対して、進学してくる児童生徒に関する前在籍校からの引き継ぐべき情報のニーズを調査し、引き継ぎの観点を明確化した。

継続支援研究地域運営協議会を開催し、引き継ぎの時期の検討を行った。小学

校から中学校への引き継ぎ時期については、１２月中旬に保護者にチェックシートを配布し、小学校での引き継ぎ資料作成を行った。中学校から高等学校への引き継ぎ時期については、入試を経て入学候補者発表後、保護者にチェックシートを配布し、中学校での引き継ぎ資料作成を行った。引き継ぎからの支援について（学級編成・支援体制・グループ活動における配慮等学校生活における合理的配慮）は、学校間コーディネーターと各校の特別支援教育コーディネーターを中心に引き継ぎ会議を小学校・中学校間は小学校卒業式後、中学校・高等学校間３月下旬にそれぞれ開催した。



ウ．発達段階に応じた本人への支援・環境調整について

学校間コーディネーターの指定校への派遣を行った。各校での学校間コーディネーターの役割としては、発達段階に応じた支援に関する助言、連携における連絡調整、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内体制づくりへの助言、特別支援教育コーディネーターとの連携の４点である。本市では、２名の学校間コーディネーターを雇用した。１名は小学校と中学校の間で、もう１名は中学校と高等学校との間をつなぐ役割として、前在籍校に週１日、後在籍校に週１日派遣した。

研究指定校での教職員の専門性を高めるための研修を、本研究での方向性をご示唆いただいている植草学園短期大学・植草学園大学の先生方を講師として招聘し、各学校全職員を対象に、それぞれ１回実施した。研修会では、発達障害の特性について体験的な内容を取り入れて理解を深め、その対応方法についてもお話ししていただいた。

5. 主な成果

(1) 障害の特性に応じた個別の指導計画・教育支援計画の見直し

学校間コーディネーターを指定校へ派遣することにより、発達障害の可能性のある児童生徒等への対応について先生方への指導を行い、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成に向けた助言を行った。学年会のメモのように、記録を残していく重要性について確認することができた。

保護者が児童生徒の学習面や生活面・行動面を確認するチェックシートを作成した。生徒一人一人の個性（特性）をつかみ、進学先で、これを活用することにより、有効な支援方法を引き継げるように意図した。障害への理解がなかなか進まない家庭に対しても、よりよい姿で子供が学習していくことに対して賛同を得ることを通して、前在籍校から進学先への引き継ぎを可能にするしくみを整えることができた。

(2) 発達段階に応じた本人への支援・環境調整について

発達障害に関する研修を行うことにより、子供達の良い部分を引き継いでいけるよう先生方の意識を高めることができた。

6. 今後の課題と対応

(1) 今後の課題

ア．障害の特性に応じた個別の指導計画・教育支援計画の見直し

有効な支援の手立てを検証するための通常学級における個別の指導計画の作成を、さらに進めていく必要がある。

イ．引き継ぎにおける観点の明確化、時期・受け入れについて

前在籍校から後在籍校へと有効な支援が引き継がれ生かされているか、検証する期間をとる必要がある。

(2) 今後の対応

前の学校で、「困っている子」の情報は、ある時は、生徒指導上の問題として、またある時は、長期欠席傾向のある児童生徒の問題として、次の学校に伝わることがある。子供に対する情報は、そのエピソードと合わせ多く伝わるものの、前の学校で先生方が子供の困難さに寄り添って、工夫し時間をかけて築き上げた支援方法や指導の経緯が、進学先にうまく伝わらないことがある。

「困っている子」が「困った子」にならないように。その子らしい生き生きとした姿がずっと見られるように、そんな思いを込めて有効な支援方法を系統的につないでいきたい。

7. 問い合わせ先

組織名：

(1) 担当部署　　八街市教育委員会学校教育課

(2) 所在地　　八街市八街ほ 35 番地 29

(3) 電話番号　　０４３－４４３－１４４６

(4) FAX 番号　　０４３－４４３―１４４８

(5) メールアドレス　gakkyo@city.yachimata.chiba.jp